

大会宣言(案)

本日、私たちは、J S 労結成を勝ち取った大阪の地で第 4 2 回臨時大会を開催し、J R 総連からの脱退及び組織脱落者への査問委員会設置を決定した。

J R 総連は明日 1 2 月 1 2 日、第 4 2 回臨時大会を開催し J R 東海労の「除名」処分を決定する。その後、敢えて第 4 3 回臨時大会を開催し、1 1 月 2 8 日に J R 東海労からの脱落者で結成した新組合（J R セントラル労働組合）の J R 総連加盟を決定する。これは、J R 東海労への明確な組織破壊攻撃である。J R 総連が、J R 東海労を破壊するためだけに脱落者を組織化し新組合を結成したのである。産別組織・J R 総連が加盟単組の組織破壊をするなどあってはならないことである。組織破壊産別・J R 総連から除名処分を受ける理由も必要も全くない。

従って私たちは、組織破壊攻撃を許さず断固闘う意志を明確にするために、J R 総連と決別し J R 総連から脱退することを決定した。

また、J R 東海労結成以降 3 3 年間の闘いを否定し逃亡した脱落者を私たちは許さない。「J R 総連と共に」「森下を支える」を合言葉に、J R 総連からの組織破壊攻撃に賛同した脱落者に対して、査問委員会の設置を決定した。

J R 総連は、J R 東海労を除名するために、① J R 総連近畿地協第 3 5 回定期委員会での組織破壊行為に対する組織指導、② J S 労の二重加盟解消、③ 新幹線関西地本のホームページの削除について、J R 総連執行委員会の指令に従わなかったことを理由に統制委員会を設置したのである。そして、J R 総連は第 4 1 回臨時大会を開催し J R 東海労への除名処分を決定したのである。

私たちは統制委員会に対して、事実と反することであり制裁には値しないことを具体的に、事実を以て弁明してきた。しかし、統制委員会は、J R 総連のみの意見をそのまま受け入れ、ウソとデッチ上げによる虚偽の事実で除名の答申を下したのである。

J R 東海労を除名処分とした J R 総連第 4 1 回臨時大会で、小林書記長は「一連の問題の核心は、J S 労結成過程における二重加盟である」と総括答弁を行った。組織化の手段でしかない二重加盟を問題としているのは、J S 労結成を認めないということの意味するのである。新しい労働組合を結成して何が悪いというのか。労働組合が結成されて一番困るのは企業である。J S 労の結成を否定し脱落者による新労組の結成は、J R 総連が労働者の連帯を破壊する企業の代弁者であることを明確にしたのである。

一方、脱落者らは新組合を結成したが、2 0 2 9 年に J R 総連によって解散させられるのである。解散は、決定であり絶対である。まさに、脱落者は J R 東海労を破壊するためだけに利用され、組織の裏切り者とされたのである。それは、組織展望を切り開くために日々奮闘している J R 東海労組合員に対する冒瀆である。

私たちは、J R 総連の手先になった脱落者と新労組の結成による組織破壊を許さず、J R 東海労の組織拡大を実現するために堂々と闘っていく。

私たちは、虐げられている労働者の連帯を目指し、命と暮らしを守るために断固闘っていく。

以上、宣言する。

2 0 2 4 年 1 2 月 1 1 日
J R 東海労働組合
第 4 2 回臨時大会